

## ナショナルコレクション申請書

新規申請       申請更新  (いずれかに)

■申請年月日      2018年 2月 15日

■申請団体・申請者名

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

■申請団体の代表者名 (個人での申請の場合は不要)

非公開

■申請団体・申請者の連絡先 (住所、電話、メールアドレス)

非公開

■コレクションの所在地 (コレクションが分散している場合は主たる所在地)

京都府京都市左京区一乗寺竹ノ内町11番地

■コレクションの公開に関する現状と今後の方針

原則非公開としているが、ツバキの開花期にはホームページからの申込みで指定日時のみ一般公開を実施している。このようなかたちでの公開は今後も継続していく予定である。

■コレクションの分譲に関する現状と今後の方針

園内での次代株育成を実施できていることから、現状における他施設への分譲は予定していない。

## ■コレクションのテーマ

武田薬品京都薬用植物園命名ツバキ品種群

## ■コレクションの概要

1956年、当社六代目・武田長兵衛社長が訪米からの帰路、ハワイにて「ユキツバキ」の存在を知ったのが発端である。社長の命により同年から当社研究所、富樫誠研究員がユキツバキの収集に向けた調査を始めた。現在、ツバキ園には古品種（市販の古い品種）355種、新品種（当園が原木または穂木から収集し、新たに命名した品種）155種および外国から導入した品種67種の計577種が植栽されている。特徴としては品種名が正確な点である。古品種は東西のツバキにかかわる学者、業者、趣味家ら10名で組織した品種同定会（1974年と1975年に開催）において合格したツバキ、新品種については武田科学振興財団発刊の「日本の椿（1968）」において公表されたツバキとなっている。その中には京都・奈良などの神社・仏閣の銘椿も含まれている。なかでも、奈良・東大寺の‘紅流し’は、原木が枯死したため1958年に採穂して当園にて保存していた個体が2000年11月に東大寺へ里帰りするに至った。このように、遺伝資源保全の観点からも当園で栽培管理しているコレクションが役立ったといえる。

ツバキの園芸化および品種の発達は江戸時代初期に始まり、特にヤブツバキとユキツバキの両種が息する北陸地方では自生個体に幅広い変異が見られ、そこから数多くの園芸種がこの地方で得られた。それらは寛永から元禄年間にかけて京都を経て全国各地の武家屋敷や寺社仏閣に広まっていったと考えられる。一方、これらの貴重な品種や個体は高度経済成長期の各種開発（宅地、工場、道路、植林など）により消滅の危機にあった。また当時お茶の水女子大学の津山尚教授は北陸地方をはじめとする各地のツバキにおける八重化を研究中であり、頂戴した種々の情報をもとに、山形県の会津地方、新潟県の東頸城郡や岩船郡、富山県の東砺波郡や婦負郡、石川県の金沢市、福井県南条郡、京都市伏見区、福岡県太宰府市などの各府県に現存していた個体の調査・収集を行った。

今回、「武田薬品京都薬用植物園命名ツバキ品種群」としてコレクション申請した121品種は、前述の新品種（新たに命名した品種）155種のうちツバキ園で現存するタイプツリーである。

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数（保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル記入要領」にしたがい提出）

日本各地で栽培されていた121品種、121株

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数  
種苗登録などされている品種・個体ではないため、他での報告はない。

■コレクションの栽培管理状況（所在地が分散している場合は、ここに全てを列記）

基本はツバキ園での露地栽培を行い、樹勢が劣ってきたタイプツリーの個体については挿し木等の栄養繁殖を行いバックヤードで次代の株を育成している。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

導入時の手書き台帳に記載されたオリジナルの文字情報を紙ベースで保存するとともに、それらをエクセルに入力してデジタルファイルでも管理している。

■コレクションのラベル表記状況（栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど）

ツバキ園においては長さ 1m 程度の杭にラベルを貼り付けて識別名の表示を行っている。バックヤードにおける保存株についてはホワイトラベル上に識別名を記載している。

■コレクションへの協力団体・協力者（種名の同定、導入など）

コレクションの収集にはお茶の水女子大学・津山尚教授および元社員である渡辺武、富樫誠両研究員に、個体識別の整理には武田科学振興財団の三宅馨元理事に負うところが大きい。

■コレクションの長期保存のための増殖・危険分散体制

樹勢が弱いと感じられる個体については、適宜、園内において栄養繁殖を実施して安定的かつ継続的な次代株の育成を進めている。

■これまでのコレクションの広報・利用実績（研究・展示・分譲などを含む）

今回の申請に関わる個体の生育特性、形態的特徴は「日本の椿（1968 年、津山尚編、廣川書店・東京）」としてまとめられ、別巻の花の写真集とともに出版されている。年 4 回開催している一般公開のうち 3 月下旬～4 月上旬での実施分、地元見学会、従業員見学会などではツバキ園を公開している。

別紙「申請書記入要領」を参考に詳しく記載してください。必要に応じて行数を増減し  
てご記入ください。申請書、保有植物リストや写真データ時の作成や送付について、ご不明な点があれば、お気軽にナショナルコレクション委員会までお問い合わせください。

申請書の専門的な内容やデータの扱いや入力方法等につきましては、委員会でお手伝いすることも可能です。

申請書は郵送またはメールで、また保有植物リストおよび写真は CD-R または USB メモリなどのディスク媒体をナショナルコレクション委員会宛に郵送してください。なお、媒体は返却しません。

公益社団法人日本植物園協会 事務局内 ナショナルコレクション委員会  
〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201  
TEL : 03-5685-1431 FAX : 03-5685-1453  
E-mail: jabg-nc@syokubutsuen-kyokai.jp